

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799400045		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホーム さざなみ松屋町		
所在地	大阪市中央区瓦屋町1丁目7番11号		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>さざなみの理念 1、楽しく、自由に、ありのままに 2、残された力で暮らす喜び 3、家庭的な愛にあふれた暮らしを 4、地域との交流と連携をはかるのもと 入居者様お一人お一人の存在と尊厳を認め受け入れご自分らしく快適に生活して頂ける事を目標とした介護の実践をめざします。介護の質の向上、介護職員の資質の在り方、介護職員の認知症研修に努め、知恵が蓄積されていく介護施設と なるよう努めます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>有限会社さざなみが運営する大阪市中央区のグループホームであり、地域的・文化的にも恵まれた場所で、最寄りの駅から近距離の立地にある。近くに空堀商店街がありホームの外観は古民家風の建物で、街に一体化している。認知症の方が認知症であっても「その人らしく家庭的な生活が出来る支援」の向上を促すため介護サービス分野・教育分野等の事業所があり、日本語学校に通い、介護資格を目指す若い外国人スタッフも活躍している。運営推進会議も家族・利用者・有識者の参加も多く情報の交換や意見・要望を聴き運営に反映している。業務では質の良い介護の提供とスキルアップの為にスローガンを掲げている。事業所の駐車場をグループホームの認知度を上げる為に、月2~3回カフェとしてオープンしている。今では地域の方との交流の場所として定着しつつある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	楽しく自由にありのままに、家庭的な愛にあふれた暮らしをの理念のもと毎朝ご入所者様の傍で声に出して唱和し共有実践に努めております。	毎日朝礼の時、さざなみの理念と職員のスローガン、心構えを1階の食堂で唱和している。入居者も聴いている。	理念と共に、その事業所が目指すサービスの在り方を、「事業所独特の内容を端的な言葉」で表現され、目に触れる所に掲示されることを望む。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週末のオープンカフェで地域に開かれた空間作り、1週間に1度の地域への喫茶店での珈琲タイム、ヘルストロンへと交流に努めております。	月2～3回の割合で毎土曜日か日曜日にホーム玄関前のガレージでオープンカフェを開催し地域の方との交流ができています。認知症カフェの登録はしていないが2年経過している。空堀商店街や近所の方との交流が増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の情報を頂きオープンカフェで認知症の方への理解をして頂くよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の活動報告で地域の方、ご家族様のご意見、助言に耳を傾けサービスの向上に努めて参ります。	運営推進会議は2ヶ月毎に定例化し、地域包括センター・町会長・ボランティア団体からの知見者、家族や入居者の参加も多くなっている。ホームの行事・活動報告や利用者の状況報告や地域からの情報交換、利用者の要望など聴き、運営に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との担当者とは何かあれば話しあってつながりを大切にし密に連携をとり指導を受けてサービスの取り組み積極的に努めて参ります。	中央区役所との連携は多々あり、介護保険課・支援生活保護課の職員が来所されて情報交換や協力体制が整っている。傾聴ボランティアや週1回の同行ボランティア等の協力も保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体的拘束の内容と弊害を認識し、身体的拘束をしないケアの実践に取り組んで参ります。	身体拘束をしないケアについて研修し理解している。施設内は自由に行き来でき、屋上へは職員と一緒に外気に触れ、椅子に座り談笑する機会が日常的にある。玄関の目の前は一般道路で危険が伴うので、安全性の為、通常は施錠しているが、カフェの時間や見守りが出来る時は玄関ドアを随時、開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご入所者様の日常のご様子など毎日スタッフが話し合い、虐待がないか注意を払い防止に努めて参ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を学び、必要と考えられるご入居者様やご家族様は関係者と話し合い、必要な支援をさせて頂くよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書や契約書の内容をご家族様、ご入所者様に全て説明させて頂き、不安や疑問点にお答えさせて頂いてご理解、納得を得て参ります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時にご意見、ご要望をお聞きして、或いは スタッフ自らの反省点からも出来るところからご要望などを実践させて頂くよう努めます。	家族や知人の面会が多いため何時でも意見を言えて、聴きやすい雰囲気と環境にある。意見や要望また雰囲気などからスタッフ同士で気づきなど共有している。例えば接し方や態度、言葉づかい・声のトーン等相手に不快を与えない様な接遇を実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は運営に関する会議にスタッフの意見、提案を聴く機会を設け よりよい職場になるよう意見交換して学んで参ります。	毎日のミーティングと毎月のフロア会議、職員会議は第3水曜日の夕方、協力医往診後(一時間以内)と時間を決めて、業務に関すること、利用者のケアや食事・外出のことなど意見や提案等の意見を聴き職員の気づきやアイデアをホームの運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフがやりがいを持って仕事ができるような体制を目指し、向上心を持てるような職場になるよう心配りし、各自が努力出来るよう進めて参ります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の仕事、会話の中で特性、力量を把握して内をみつめ それぞれ学びの機会を持って学んで、意見交換する事によって更に学んで参ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でのネットワークを構築して 社協が主催する行事には積極的に参加してサービスの質の向上に努めて参ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事、不安な事は 何らかの表現があると思えますので、それを全スタッフで意見を交差させながら、理解に努め安心出来る信頼関係作りに努めて参ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに対する不安、疑問点、要望等は、その都度 お聴きしてできる限りのお返事をさせて頂き 安心して地域で暮らせるようサービスに努めて参ります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様のご要望、ご家族様のご心配の在り方の支援の多様化を考え、出来得るサービスの提供に努めて参ります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	健康第一と考え、体操等で共に身体を動かし作業で暮らしを共にする者同士の関係作りに努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご家庭における立ち位置を変わらず支援しながら ご本人と家族の架け橋として常に在り方を考えて参ります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご面会の方の関係を継続し支援に努めて参ります。面会時間内でのお話し、外出時の配慮には万全をきします。	家族の面会が多く、友人・姪の方などが継続して訪問している。遠方の家族とは双方向の話し合いができ状況報告し、年1~2回の面会が継続できるように支援している。自宅の仏壇が気になる利用者には職員が同行支援し希望に答えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション、談話等でご入所者様同士が友となれるような関わりを持ち仲良く笑える雰囲気作りの中で 支援させて頂く中で孤立をなくし、支え合える環境作りに努めて参ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の元ご入所者様のご家族様と挨拶を交わしながら関係性を維持して参ります。又遠距離のご家族様には行事等を案内させて頂き 絆を保って参ります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け入れ、認め、その人らしさの受容に努めます。ご本人の意向が困難な場合 スタッフが連携し、意見を聞き、まとめ 扱うよう努めて参ります。	認知症が有っても自身の意思をはっきり言える方が多い。遠方の家族にも電話して会えるようにしたり、代わりに家族の要望を聴いている。「京都に帰りたい」等の思いなどを傾聴し、家族にホームに来ていただき、その方の要望に添えるよう努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活歴か、生活環境か経過を把握し、工夫し、社会資源を取り入れよりよく支援できるよう サービス向上に努めて参ります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の出来る事、出来ない事の変化を把握して ご自分のペースで過ごされる喜びを見つけるよう努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からご意見やご要望を聴き 介護計画に反映させて頂いて参ります。介護現場からの報告を経てケアプランの見直しを見直しをさせて頂いてよりよいプランを作成させて頂きます。	本人の意見を中心に受け持ち担当者などから報告を受け、家族の面会時を意見や要望を聞く機会としている。家族や身内の方からは食事やケアのこと外出のことなど要望がある。管理者やケアマネジャーから家族に毎月のモニタリングと現状報告して介護計画作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入所者様の状態観察、経過の気づきなど記録を通して スタッフ間で情報共有しながらケアの実践、記録の在り方の学びに努めます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入所者様、ご家族様のご要望をさまざまなみ全体で対応し出来る限りのサービス提供に努めて参ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に密着した楽しく自由で安全な生活を提供するために 地域資源の把握と地域との交流に努めて参ります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様とかかりつけ医の関係を大事にし、当主治医に医療連携になるよう同意を求め定期的な医療が適切に受けられるよう努めて参ります。	かかりつけ医は本人、家族の希望を尊重している。従来の医療機関にしていた利用者が、話し合いで現在は協力医療機関をかかりつけ医として、月2回の内科の往診、週1回の口腔衛生歯科医の往診を受けている。特殊な治療を必要とし、主治医の交代を望まない場合はこれまで同様の継続受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入所者様の日々の状態観察はまず当看護師に相談し、適切な指示のもと受診、看護、介護への情報をつないで介護に努めて参ります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご入所者様が 入退院時或いは後に安心して治療を受けられるよう主治医の指示のもと 当看護師、訪問看護師と連携を保ち医療機関との共働に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にはご本人、ご家族様と話し合いを行い その時々合った話し合いを重ね誠心誠意出来得る医療連携の支援に努めて参ります。	事業所として「出来ること、出来ない事」を明確に重要事項説明書に記載し「看取りに関する指針」「重度化した場合の対応にかかる指針」も文書化して早い段階から丁寧に説明を行っている。過去の1事例をもとに、職員はいろいろなケースに対応できるように研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時すぐに持ち出しが出来るよう書類は所定の位置に保管し連絡がとれるよう体制づくりに努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的消防設備点検を受け年2回の避難訓練で 対策を実施に努めております。近隣の消防訓練に参加し 当施設の自主訓練強化に励みます。	今年は避難訓練、消火訓練、通報訓練の内容で5月の自主訓練と消防署の指導の下で10月に実施している。自動火災通報装置、スプリンクラーの設置はしている。備蓄はお茶、白湯の飲み物だけの為、内容の見直しと確かな地域の協力を得ることが今後の課題である。	夜間、職員が一人勤務の場合、災害発生した時、どう対応すべきかを、災害の種類(火災、風水害、地震)ごとに、全職員がよく話し合い、詳細なマニュアルを作成し、地域の協力を得て一緒に繰り返し、訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入所者様のお立場に立って ご健康と人格を重視したお声かけをこころがけるよう努めます。	年間研修計画の中で倫理、法令順守、プライバシー保護、権利擁護の研修を行い、態度や言葉使いについて、利用者の尊厳やプライドを損なわない対応に努めている。利用者への呼びかけにも「〇〇さん」と呼んでいる。個人情報の取り扱いや保管は適切に扱い、鍵のかかる書庫に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人の気持ちを汲み取りながら傾聴させて頂き ご自分の思いを表現されるよう或いは 汲み取れる様努めて参ります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のリズム、ペースに沿ってタイムスケジュールに流れるように又その人らしい安心した一日が送れる様努めて参ります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい普段どおりのみだしなみを支援して参ります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事中 テレビは消し顔を合わせて頂いて 完食を目指しております。いろいろな食事形態を使用して 楽しんでお食事して頂けるよう試作中です。	調理師のスタッフが昼食、夕食を調理して旬の食材を取り入れた美味しい食事提供をして毎食の完食を目指している。利用者の嗜好を取り入れて職員と一緒に作る時もあり、ジャガイモの皮むきや台拭きなど個々の出来る範囲で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量は季節に沿って、ご本人に合わせて、お食事は体調に合った調理法で摂取して頂けるよう工夫努めて参ります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアされた後確認させて頂き、不十分な所は介助させて頂き、口腔内の早期発見、義歯の取り扱いに気を付け清潔保持に心がけて参ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを全スタッフが、把握し共有して協力体制のもと、記録確認して排泄介助させて頂いております。	職員は排泄チェック表で時系列に記入されている利用者個々のパターンを把握している。2・3時間おきに声掛けしてトイレ誘導し、便座に座って排泄するように、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お身体をしっかり動かし、十分な水分摂取により、排便コントロールを全スタッフが把握共有して対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔、健康維持のため定期的に入浴時間を決めさせて頂き気持ちいいと言う実感味わって頂いています。同意が得られない時には清拭、足浴などで清潔維持を保って努めております。	入浴は週2回を基本としているが、個々の希望には柔軟に対応している。2方向介助の浴槽で立位や座位の姿勢が難しい人はシャワーチェアを利用し、入浴剤を好む利用者には皮膚の状態を見ながら入浴を楽しめるよう個々に沿った入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間をすぎても寝付かれない時 又夜中根目れない時 寄り添い話を聴き 寝付けるよ促し安心して頂ける迄付き添うよう努めます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を通して薬剤師、医師に服薬の説明を受け 聴いて 薬の作用の理解に努め その上で症状の変化やバイタルサインの把握をして医療連携による服薬介助に努めて参ります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションで物づくり、ゲーム、お買い物、整理整頓、洗濯物に関する作業などで共に生活を楽しむ支援に努めて参ります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	空堀商店街でのお買い物、ヘルストロン、喫茶店での珈琲タイム、散策にと出かける事で外出支援に努めます。ご家族様との外食、展示物鑑賞等お出かけの機会も自由に使っておられます。	ホーム内に閉じこもるのではなく天気の良い日には外出ボランティアの方の協力も得て、体調を見ながら近くのスーパーでの買い物や喫茶、ヘルストロンへ積極的に出かけるように支援している。家族の協力も得て外食、展示物観賞にも出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフ同行してお買い物の金銭管理して頂き計算して頂く事で普通の生活の在り方の支援をさせて頂くよう努めます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が話したい時 自由に電話はかけて頂き お手紙はだんだんと字が書けなかったり読めなかったりで スタッフの代行で近況報告を送っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場には手作りの絵、壁飾りで季節毎の空間作りにおもきをおき、家庭的な空間を維持するよう努めて参ります。	共用空間の玄関、廊下、居間などは、ゆったりして明るい。1階の食堂はセンターに対面式キッチンが設置され、その左右にそれぞれのユニットが食事、談笑など寛げる交流の場ともなっている。2階・3階ともリビング、風呂、トイレがあり適度な空間は、清潔感がある。壁には写真、塗り絵、書道等、利用者の力作が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中での一人だけのくつろぎの居場所の確保は容易ではありませんが、オープンカフェでの空間に 珈琲タイムに探し求めるよう努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れたテレビ、テーブル、手作りの日本人形、家族写真等思い出をよみがえらせる配置に心配りし 努めて参ります。	各居室にはベッド、整理タンス、冷暖房、防災カーテン、ナースコールを設置している。利用者は 馴染みのテレビ、テーブル、椅子、家族写真、ぬいぐるみ等を持ち込んでいる。利用者の中にはベッド使用でなく、馴染みのマットレスの上に寝具を敷き安心、安全を確保するなど、それぞれ、自分の居室として寛げるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りを日夜考えお一人お一人の力を生かした居室内部、フロアで移動介助に安全を求め続け努めます。		